

第3回 世田谷陸上競技会

【出場結果】

実施日 : 10月3日(土) 10000m

会場 : 世田谷区立総合運動場陸上競技場

出場者 : 親崎達朗 関口大樹 坪井響己 救仁郷弓揮 内田翔也

出場種目・出場者・リザルト

氏名	内田	関口	親崎	救仁郷	坪井
種目	10000m	10000m	10000m	10000m	10000m
組	4組目	4組目	4組目	6組目	7組目
タイム	30'34"74	31'26"04	31'34"78	29'09"14 (シーズンベスト)	29'56"56
順位	4/13	7/13	8/13	11/24	24/30

【レポート】

10月に入り、いよいよチーム年間最大の目標である東日本実業団駅伝まで、残すところ1か月少々となりました。

チームとしては、8月の夏季休暇や9月のシルバーウィークを利用して強化合宿を実施し、チーム力の向上に努めてきました。

今回出場した世田谷記録会には、東日本実業団連盟に所属する多くのチームが、現時点での仕上がりを確認する場として出場しており、当社からも5名の選手が10000mのレースに出場しました。

10000m4組目には、親崎、関口、内田の3名が出場しました。

新人の内田にとっては、春先に肺炎を患った影響でトラックレースへの出場機会がなく、入社後初となるトラックレースとなりました。

レースは序盤から1km3分00秒～3分05秒程のゆったりとしたペースで進み、内田と親崎は先頭集団につけてレースを展開し、関口は序盤から自身のペースを刻み、単独走で前を追う展開となりました。

5000m手前で親崎が先頭集団から脱落すると、持ち味である粘りのある走りが影を潜め、徐々にペースが落ち込むと、後方で単独走を続けていた関口に追いつかれ、ここからは2人による抜きつ抜かれつの競り合いとなりました。

先頭集団に食らいついていた内田は、7000m過ぎに先頭へ躍り出ると、さらにペースを上げて後続を引き離しにかかり、このまま快調なペースで独走するかと思われましたが、8000m以降は後続の選手にスパートを許し、苦しい走りを強いられる展開となり、それでも最後まで粘りを見せて30分34秒台でゴールしました。

後方で競り合いを続けた親崎と関口は、最後に関口がスパートを見せ、31分26秒で先着し、親崎は31分34秒台でのゴールとなりました。



入社後初のトラックレースとなった新人の内田



久しぶりの 10000m のレースとなった関口



中盤以降は、苦しい走りとなった親崎

続いて 10000m6 組目には、先週からの連戦となる救仁郷が出場しました。

救仁郷は先週のレースで、発熱明けながら 29 分 13 秒台の記録をマークしており、体調が回復した今回は更なる好記録への期待が高まります。

6 組目には 10000m を 28 分台で走る選手が多く出場しており、序盤から先頭集団が 2 分 50 秒/km を切るハイペースでレースが進みました。

救仁郷は先頭集団にはつかず、第 2 集団を引っ張る形でラップを刻みましたが、1000m 過ぎにペースを上げ先頭集団に詰め寄ります。

先頭集団との距離は詰めるも、追いつくことは出来ずに、その後は単独走に。

3000m 手前でペースが鈍り始めると、後ろから追いかけてきた第 2 集団に吸収されますが、その後は集団に食らいつき 2 分 55 秒/km 前後の安定したペースでラップを刻みました。

5000m の通過は 14 分 33 秒台と、先週のレースとほぼ同タイムでの通過となりましたが、表情に余力が感じられ、終盤の動きには先週以上のキレがあり、ラスト 1 周から鋭いスパートを見せると、シーズンベストとなる 29 分 9 秒台でゴールしました。



先週のレースに続き、好走を見せた救仁郷

最終組となる 10000m7 組目には坪井が出場しました。

外国人選手が先頭でペースを刻む中、坪井も積極的に先頭集団に食らいつきます。

1 周 68～69 秒ほどの安定したペースでレースが進む中、坪井はゾーンに入ったかのような集中した表情で淡々とラップを刻み、5000m を 14 分 24 秒台で通過し、10000m28 分台の記録に期待が高まりました。

6000m 手前までは表情にも余裕が見られた坪井でしたが、徐々に先頭集団から距離が広がり始めると、表情が一変。

軽快だったピッチも次第に影を潜め、ペースが大きく落ち込み始めます。

何とか走りのリズムを取り戻そうと粘りを見せるものの、一度落ち込んだペースを立て直すことはできず、その後も苦しい走りが続きましたが、最後まで懸命に走り切り、29 分 56 秒台でのゴールとなりました。



前半は積極的な走りが光った坪井

【総 評】

東日本実業団駅伝まで残り1か月余りとなる中で臨んだ今回の10000mのレースでしたが、選手個々に良かった点、課題の残る点はあったものの、東日本実業団に所属する強化実業団チームとの実力差は明らかであり、駅伝当日に向けて強い危機感を抱く結果となりました。

今回レースに出場した5名はもちろんのこと、出場しなかった選手も含め、チーム全員が当事者意識を持ち、チーム最大の目標である東日本実業団駅伝に向けて、一人ひとりがコンディションを高めていけるように日々のトレーニングを大切に行っていきたいと思います。

駅伝当日は、出走する7名の選手だけでなく、サポートに回る控え選手やスタッフも含め、チーム一丸となって総力戦で臨んで参りますので、皆さまの温かいご声援を、よろしくお願いいたします。

以 上